

## マテリアルリサイクルを基本に、 10年後の将来を見つめる。



### 株式会社山治紙業

(愛知県豊橋市)

筒井取締役環境部長

豊かな自然に囲まれた豊橋市で製紙原料のリサイクルを精力的に行っている株式会社山治紙業に伺い、筒井取締役環境部長にリサイクルの現状と今後の展開などについてお話をお聞きしました。

——社名を拝見して、古紙の再生を手がけていらっしゃるのことがわかりますが。

筒井取締役環境部長 (以下筒井に略) 『おっしゃる通り当社は元は紙業なんです。製紙原料を扱っている学校の廃品回収などがはじまりです。関係企業で製紙会社も持っており、そこから直接紙に関してはトータルリサイクルをいままでにも行っておりました。』

——では、産業廃棄物処理へ取り組みはじめてからどれくらいになりますか。

筒井 『必要となる設備は、学校の廃品回収ではコンテナやパッカー車を当然のことながら使っておりますので、比較的資金をかけずにこの業界に参入できました。中間処理の許可も取れましたので、そこからスタートしたわけです。5年くらい前ですね。その後、随時、許可品目を増やしております。』

——リサイクルに関してはどのように取り組まれていますか。

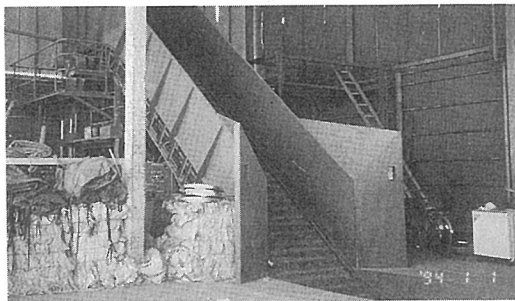
筒井 『当社の場合は、サーマルリサイクルが難しいのでマテリアルリサイクルに取り組んでいます。紙や空缶はもちろん、廃プラの再生原料化はかなりの率に達しています。牛乳パックの回収及びリサイクルもこの地域ではかなり扱っていると思います。』

——貴社独自のリサイクル技術があれば教えていただけませんか。

筒井 『実はアルミ箔などアルミが付着している廃棄物を回収し、アルミホイールに再生する技術を四社の共同研究で開発いたしました。特許も取得済みです。今後、本腰を入れて取り組んでいく予定です。』

——なるほど、リサイクルに対して大変、力を入れていらっしゃることは十分わかりました。では、リサイクルを推進していくに当たった課題がありますか。

筒井 『リサイクルを行うことが技術的にもはや困難ではなくなりつつありますが、一番難しいのは再資源化したものを使っていただく確固たるルートをつくることです。リサイクルだから処理費が高くてもしかたないのではなく、低コストでルートに乗るものをつくる。これが当社の課題です。この姿勢を貫いてこそ、未来につながる本来のリサイクルになるはず。これをきっちり実践していけば、自ずと道は開けてくると信じて現在も頑張っているところです。』



社名/株式会社山治紙業 所在地/愛知県豊橋市南大清水町字元町247  
代表者/前田一彦 創業/昭和61年 従業員/45名 TEL / 0532(25)3533  
事業所/本社、4営業所 営業種別/収集運搬、中間処理 (圧縮、分級、乾燥)  
取扱い品目 / (収集運搬) 17品目、(処理) 9品目、(特管集運) 愛知県・名古屋市  
77品目